

火の見櫓

(購字は兼谷八尾市長)

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
松村芳治
八尾市高美町5-7
TEL(0729)92-0119
FAX(0729)92-7722



新指令施設はこうなる

新通信指令施設仮運用開始!

消防本部では、消防活動の高度・迅速化を図るため、平成九年度からコンピュータを核とする本施設の導入を計画し、構築を進めてまいりましたが、本年二月一日に仮運用の運びとなりました。本施設は、団員皆様の消防活動の初動に大きな影響を及ぼすものでありますので、本紙面をお借りしてその一部を紹介致します。



(仮運用中の通信指令室)

●自動自家発電システム
●無線指令
●九九番発信地表示システム
●消防緊急情報システム
●九九番発信地表示システム

災害のうち火災については、消防署所に対する指令と同時に、合成音声で無線指令が行われますので、団員が所持している受令機で火災の発生を早期に知ることが出来ます。

●順次指令
従来の出動指令は、消防本部から災害発生地区の分団長に電話連絡をした後、連絡網等により各団員に指令されておりましたが、本施設の導入により、消防署所に対する指令と同時に、電話で分団

長及び各団員に対して、同時に五人まで合成音声で、指令することが出来ます。

●指令書
各機械器具置場に設置したファックスに災害現場の住所・目標・災害現場周辺地図等が記された指令書を自動で出力し、地図には、水利も記入されています。

●災害案内テレホンガイド
消防署の車両が火災・救助・特命で出動した場合、自動的に合成音声で災害案内装置にその内容が登録されます。

市民・団員の皆様は今後

九五―九一九に電話することにより、その内容を聞くことができます。本施設の正式運用は四月三日を予定しておりますが、正式運用開始後は、災害通報の受付から出動指令までの時間を従来より三〇秒〜一分間短縮できるものと期待しております。

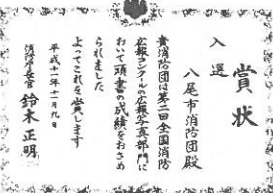
消防団員の皆様も新たな指令方法に早く慣れていただき、迅速・安全・確実な消防防災活動に活用していただきますよう、お願いいたします。

本誌重なる受賞

全国消防広報コンクール写真入選
近畿市町村広報コンクール奨励賞

本紙「火の見櫓」が、昨年の一月、二月に相次いで二つの広報紙のコンクールに入賞致しました。

一つ目は自治省消防庁の実施する第二回全国消防広報コンクール写真部門で「火の見櫓」第三号に掲載した写真が見事「入選」して消防庁長官から八尾市消防団に対し表彰状と楯を授与されました。これは、以前制



(消防庁長官表彰状)

服で行っていた警備を、Tシャツ姿で実施したところ、普段、制服姿では見られない団員の人間味をとらえたことが高く評価されたようです。

二つ目は、毎日新聞の主催で実施されている、第二回近畿市長村広報紙コンクールにおいて「火の見櫓」が奨励賞を受賞しました。応募作品の殆どが、専従の職員で作成している中、団員のみが少ない予算で頑張っているところが大きく評価されたことと

合格点もらえたかな?

アンケート集計結果

「火の見櫓」について前号配布と共に実施致しましたアンケート調査にご協力を戴きありがとうございます。

回答総数は二二六で回収率は九一%でした。読んでもらえたか?どの様な印象を持たれたか?紙面構成は?内容に付いては?と緊張しながらの集計作業でした。

読んでいますか?
「必ず」時々を含めて八九%の人達が読者であった事に感動を覚えた。それにして「感心がない」四%、「知らなかった」二%、「二%に驚いた」。「無回答」その他を含めた十一%の非読者に興味を抱かせる広報にしなければと考える。

あなた以外の読者は?
家族が圧倒的に多く、友人、近所、職場の順で約六十%の人が自分以外の読者を増やしてくれたことに感謝したい。残り四〇%の団員さんも出来る限り多くの人達に読んで戴けるよう協力をお願いします。

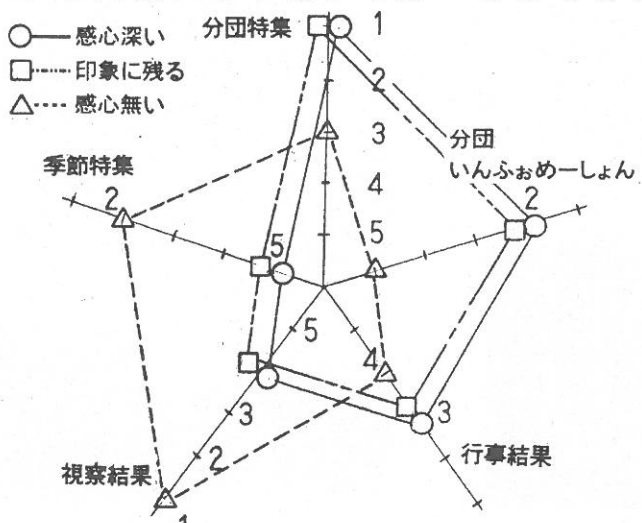
あなたの読み方は?
「全て」「感心のある所」が大半を占め八五%以上、「自分の関連記事」「見出し」「写真だけ」が約十%、「その他」無回答が約五%で、タイトルや写真、そしてレイアウトも読者を引きつける大きな要因であると思う。

紙面構成は?
「普通」の約六九%で大部分を占め、「読みやすい」の

二二%を含め九一%で「まあまあ」の評価が出ているように思われる。しかし少数であるが、「字が小さい」「文字が多い」「レイアウトがへた」等の意見もあり、前項を含め反省材料の一つである。

記事内容については?
「良い・普通」が九二%を占め喜ばしい結果と判断する。しかしながら「硬い」三・五%、「おもしろくない」一・三%等の回答もあり喜んでばかりではいられない。

次に定期的な掲載で「感心の深い記事」「印象に残ったもの」「感心の無いもの」に対する調査結果を各回答一位から五位をグラフで示し



◎少ない予算でよく頑張っているが、もっと柔らかい見出し、テーマにする必要がある。例えば「分団いんふおめーしょん」的な方が読まれやすいのでは? 以上の様な、嬉しくも厳しい評価でした。今後更なる紙面充実のため皆様のご意見・ご希望をお待ちいたします。

う。最後にこの度「奨励賞」を戴きました毎日新聞社の審査評は、我が「火の見櫓」に対し次のような率直なアドバイスをしてくれました。

◎上手とは言えないが、消防団として市民に情報を伝えようとする努力のあとは十分うかがえる。

◎意欲は大いに評価できる。ただし生真面目すぎ。

◎消防団活動が消火のみならず、災害全て、また救命救急等、PRによつて人々の信頼を得ていこうとしている様子が分かる。

指導員研修会に

参加して

第八分団分団長 鹿野 豊

去る一月二一日大阪府立消防学校にて指導員研修会が行われました。

内容は、各個訓練・小隊訓練・停止間訓練等の基本動作を再確認するため、研修生一同開講前のなごやかな雰囲気から一転、真剣な表情へと大きく変化したのが印象的でした。次に岩口先生の人権問題等について講演があり、さらに幹部としての各種講習を受け、おおいにその必要性を感じたところです。

我々消防団員は地域住民の生命と財産を守るため、初期消火や応急手当の講習会を多くの住民参加のもとで開催・指導することが重要であると痛感しました。自らの手で災害から郷土を守る「自発的義勇精神」を基盤として、地域に密着した「公的消防機関」であり、消防団員は法的権限が付与され、通常は生業を営みながらも、災害発生時には十二分にその力を発揮しています。また地域の警戒パトロールを実施する傍ら火災予防活動に参加して火災の減少に大きく貢献すると共に、地域住民との話し合いに参加するなどして積極的に活動しております。

今後サラリーマン団員が増え、昼間における消防力の低下が進みますが、団員が力を合わせ災害を最小限に食い止めなければならぬと思います。団の活性化については、委員会で十分に議論・検討し、目的達成のためさらに努力して行くつもりです。

分団いんふおめーしょん

本部分団

植野

「問題提議」

我が分団は現在20代後半から40代の中間管理職に近いサラリーマンや経営者がほとんどです。その為に平日昼間の消防団行事の出席は難しい状況にあります。「将来、消防団行事については土・日曜中心にする・減らす・訓練見学等の現在幹部のみで参加している団行事への団員の代理出席及び積極的参加を図る」という点、是非ご改革いただきたい。でないとなかなか手がない。他分団にとっても他山の火事ではなく近い将来現実の課題となることと思うのです。『活性化=若い力』となる以上避けては通れない火急の問題と思うのです。そんな事を歳末夜警の中で話し合っていたのです。みなさんはどうお考えか?建設的なご意見をお願いしたい。



(少数精鋭)

第1分団

緒方

「秋の一日」

昨年秋の西郡地区市民スポーツ祭において、私達第一分団のメンバーも自転車置場の整理役員として参加することになり、新しくなった分団独自の帽子をかぶり夏服で消防団員らしく、てきぱきと、又親切丁寧に整理できる様に務めました。火災現場での緊張した表情と違い、会場にこられる方も不思議な様子で「今日は、なんでっか?」との問いに「役員として頑張ってます」と答えると「御苦労さん」との言葉。こういう活動も大事だと思う。時間を見つけてかわるがわるに種目に参加したところ「今、消防団チームが走っています」とアナウンスなどもあり、日ごろと違った姿を見てもらう事ができました。気持ちは若いつもりでつい力がいりすぎ、後で年齢を考える。もう少し体力をつけよう。「2000年、今年も一致団結し何事にも頑張るぞ!!」



(オーエス)

第4分団

高橋

「名物団員の自己紹介」

私は、第四分団太田分隊の高橋康夫と申します。昭和26年生まれ、A型、牡牛座。趣味は、園芸、特に果樹栽培です。接木をしたり、剪定、消毒などかなり手間がかかります。その反面収穫の喜びは、ひとしおです。今年はサクランボ・スモモの作柄は最悪でした。団員の中で同じ趣味、プロの方アドバイスよろしくお願いします。団員になるまでは、火災について、漠然としか考えていなかったように思います。いざ団員になって火災の怖さ・痛ましさを目にし、改めて火災の怖さを思い知りました。商売柄、出張する機会が多くあり、夜に連絡のため家に電話します。まず初めに、火事がなかったか、最後に火の用心と、戸締まりをくれぐれも、この2つのが習慣になりました。



(愛娘と)

第5分団

桐山

「子供達参加の歳末夜警」

例年実施している歳末夜警に参加した八尾木子供会会長(曙川小6年)柳瀬佑介君の作文を紹介します。「僕たち、八尾木子供会男子10人は、消防団の夜警に初めて参加し、消防団の方から、防火についての注意や、火災での消火活動の話聞いて、防火についての認識を改めました。消防団の方には、防火活動をこれからも、よろしく願いいたします。又、消防車も近くで見れたし、みんなで食べた夜食のおでんも、おいしかったし、楽しい一日でした」我々消防団一同は、地域の皆さんとの会話により、火事の怖さと防火の大切さを家族全員が知ってもらい、そこから消防団活動への理解が生まれたら幸いです。



(団員予備軍)

第6分団

森田

「市民スポーツ祭に参加」

去る10月10日(日)当分団は南高安地域の市民スポーツ祭に参加しました。



(消太くんとパチリ)

今までは場内整理と競技参加だけでしたが、今回は消防車両及び団員による行進と規律訓練を行い、日頃の鍛練の成果を発揮することができました。又、本署より参加いただいた消太君(ミニ消防車)も行進に参加しました。停車中の車両を目前で見て触れることの出来た地域住民は大喜びでした。



第7分団

清水

「屯所新設・軽4WD配備」

神立分隊は高安山台地に位置し、道路が狭く人数も少ないので、可搬動力ポンプを農業用貨物自動車に積んで出動しておりました。その際手間がかかり消火活動に支障を来すことが多かった。団長、副団長が各地域を視察されポンプ車の必要性を思われて今年度、長年の団員達の奉仕活動を認められ屯所の新設と四輪駆動の小型動力ポンプ付積載車を配備して戴く事と成りました。昨年10月7日、新しい神立屯所で、消防長をはじめ団長、副団長、区長その他多数の方々の御臨席を賜る中、落成式をさせて戴きました。これで地域に、より一層の安全を図ることが出来、我々団員は決意も新たに地域防災のため頑張っております。



(小粒でも...)

第8分団

植田(重)

「福万寺分隊編」

我が分隊も地域において多くの行事を行っています。毎年正月の行事として三十八(みとや)神社境内での「とんど祭」を15日朝に行っていましたが、今年は14日の夜に変更して行いました。思惑通り各家庭から多くの人達が、各自正月の飾り物やお札を持ち寄り午後7時



(伝統の炎は消さないぞ)

の点火前から境内は人で埋め尽くされました。皆さん一様に「家内安全」「無病息災」等を祈願されていました。一段落した頃に、向井副分団長は「多くの地域住民が相互に、また団員と話している光景を見て大変満足した」とコメントしていました。

第9分団

角野

「田井中分隊新車両入魂式」

待ちに待った新しい消防車が昨年3月16日に配備されたので、入魂式をどうするか、前回と同様今回も盛大にするか、しないか、団員全員で相談したり、町会の方々に相談したり、いろいろ考えた結果、町会のバックアップで式を執り行う事に成りました。それから神主さんと打合せとか、記念品とか、どのように式を進行させて行くか、いろいろと調整して、ようやく昨年10月24日(日)にめでたく入魂式を無事に終える事ができました。これもひとえに、田井中町会、各種団体を始めとする地元の皆様、第九分団の役員、消防本部の方々の、お力添えと厚く感謝する次第であります。これを機会に団員一丸となって、初心にもどり地元の方々の期待にそうように、頑張りたいと思います。これからも宜しくお願いします。



(気持ちも新たに)

特集 第四分団

空港と共存するまち

広報部員 嶋野雅一 川北雅弘



(八尾空港)

今回第四分団では、時代とともに役割を変え、新たな役割を担おうとしている八尾空港を取り上げます。長い歴史と広大な敷地を誇る八尾空港は、太田分隊と木の本分隊を二分する形で東西に長く広がっています。もう少し正確な位置を説明しますと、大阪の中央部JR大阪駅から約二〇kmの八尾市を中心とする河内

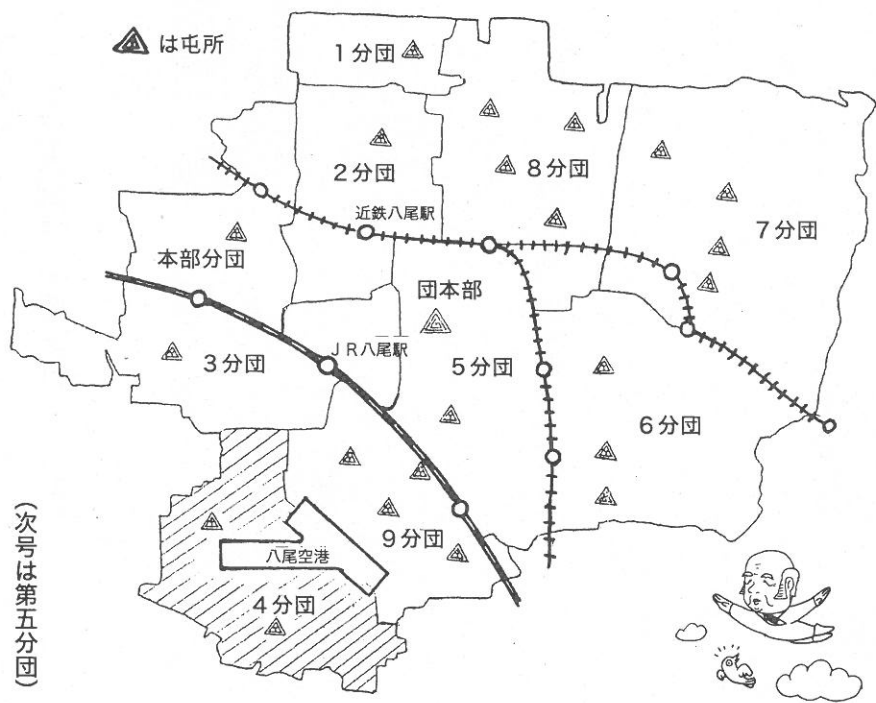
平野に位置し、空港の東三kmには南北に生駒山系があり、南一kmには大和川が東西に流れ大阪湾に注いでいる。また西側には、大阪市営地下鉄谷町線の八尾南駅があります。歴史も古く昭和九年農地の埋め立てにより東西七〇〇m、南北三〇〇mの芝張地を整備し、航空士育成の場として同地に「阪神飛行

学校」が設立されました。しかし戦時色の濃くなった昭和一五年、阪神地区の「大防空飛行場」を建設するため、陸軍が接収を決めたことで飛行学校も短い歴史を終え、この飛行場を拡張する為に地元農民との間に深刻な土地問題もあつたと聞いています。飛行場は「大正飛行場」と改名、八五万坪(甲子園球場の約二二倍)の大きさに拡張され東洋一と言われた戦闘基地として名をはせた。

長く暗い時代を経て昭和二九年八月全面返還され、全国初の民間空港「八尾飛行場」として再出発し、現在では大阪航空局八尾空港事務所として広さ九六、八九八㎡(約二四万坪)の敷地で日夜不定期航空運送事業を認可された航空会社一二社があり、宣伝広告、写真測量などの他、最近では家用機や遊覧飛行の発着も増え、駐留機数は二〇〇機を超え、その中には大阪府警や奈良県警の航空隊や自衛隊中部方面航空隊を始め大阪消防局の航空隊などの官公庁の部隊も常駐しています。以上、空港の位置、歴史、そして現況を紹介させて頂きました。 阪神淡路大震災以来、八

尾空港は地域住民にとって一層重要な、そして心強い場所となりつつあります。「広域避難場所」の指定、それに一部を使って隣接地に「防災拠点基地」として整備されることが決まっています。震災など大規模災害に備え、食料や生活必需品の備蓄倉庫などが建設される予定です。大災害時において必ず必要となる重要な地区をテリトリーに持つ第四分団も日頃の活動の中で八尾空港が持つ重要性を認識し、空港とともに二一世紀に向け住民に一層の「必要性と信頼」を確立していかななくてはなりません。

硬い話はこのままでして、皆さん一度近くに來られたら気軽に空港に寄って遊覧飛行を楽しんではいかがでしょうか。都会の雑踏から逃れて大空に舞い上がるのです。それはさぞかし気持ちがいいですよ。 コースは一〇コース程あり、空港からビジネスパークく大阪城く梅田く天保山くハーバービレッジく難波く仁徳天皇陵のコース(大阪の歴史を上空から見るとスゴい)が人気です。クリスマスなどの夜などは、若者達のデートスポットになっています。ちなみに料金は約三〇分で大人一名一三、〇〇〇円、小人九、〇〇〇円だそう。一度ぜひどうぞ。



(次号は第五分団)

教えとくんははれ



Q 消防自動車出場時のサイレンは、何故ウーカンカンでんねん?
A ご存じの通り、消防自動車は緊急自動車です。緊急自動車には、サイレンを鳴らして、かつ、赤色の警光灯をつけて運転中のもの、という要件があります。

Q 出初式は日曜日に行ってもらえませんか?
A 八尾市では一九四八年(昭和二十三年)に自治体消防が確立された時から、消防出初式は行われており、挙行される日は曜日に関係なく一月七日とされています。

Q 他市町村において団組織の有無のばらつきが有るのは?
A 市町村の消防機関については、消防組織法に規定があり、「市町村は、消防本部、消防署、消防団のうち全部又は一部を設けなければならない」と定められています。市町村の判断により、消防本部を設けずに消防団だけを設けることができますし、逆に消防団を設けずに消防本部を設けることもできます。大半の市町村は、消防本部、消防署、消防団の全部を設けています。大阪府下には、戦前の消防団との兼ね合いや地域内に山林が無いなど様々な理由により消防団を設けていない市が五市あります。「大阪市、堺市、高石市、泉大津市、岸和田市」です。ちなみに、消防本部を設けずに消防団だけを設けている町村は、「能勢町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村」の六町村です。

Q 消防自動車はサイレンと鐘を併用しています。また、鐘の由来は、大阪では一七五九年に現在の大阪市中央区釣鐘町に火の見櫓が建てられ、半鐘を打ち鳴らして、庶民に火事の発生を知らせたことからだとされています。

Q 質問の日曜日実施につきましては、以前から実施日の変更につきまして、分団長会議及び活性化推進委員会等においても、論議されているところでもあります。今後、時代の流れとともに、消防団活性化を図っていくうえでも、各関係機関、団体等とも調整し、休日実施を検討していかなくてはならない時期と考えております。

警防課長補佐 山本

警防課長 山野

活性化に拍車!

活性化推進委員会発足

活性化のいつそうの促進と活性化における諸問題の早期解決の為、昨年一月に川野副団長を代表とする七人のメンバーで消防団活性化推進委員会が設立され、一月二十四日に第二回目の会議がもたれました。今後は活性化の具体策や団のかかえる諸問題について委員会で検討し方針が示されます。既成の団活動を見直

し、団員の処遇の改善等を図り団員にとってもやりがいがあり、市民からも期待され、また期待に応える消防団を目指して活性化を推進してゆくものです。

活性化推進委員会メンバー

副 団 長 川野通夫

本部分団長 木田孝久

第八分団長 畑中裕昭

第九分団長 鹿野 豊

警防課長 松村勝美

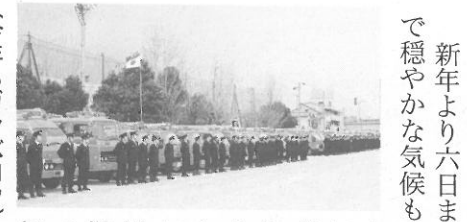
警防課長 山野 晃

消防団員募集

資格:「郷土や住民をあらゆる災害から護る」ため奉仕的な活動の出来る健康な方で地区分団長の推薦を受けられる方
活動内容: 地元における各種災害活動・災害の予防広報活動等
処 遇: 特別地方公務員としての身分保障並びに福利厚生が受けられます
詳細については、消防団事務局まで
八尾市高美町5-7 消防本部警防課内
電話(0729)92-0119



● 二一世紀に向けて ●



新年より六日までは暖か
で穏やかな気候も七日の出
初式当日
は生憎の
曇り空で
したが、
八尾市長
をはじめ
とし各関
係の皆
様、そし
て消防本
部・団と
(今年もガンバロウ)

新春を飾る出初式

幼年消防クラブの人たちが
参加して、華やかに行進や
式典が執り行われました。
今年も進行が早く、放水
隊メンバーの私は式典終了
後少ない時間で、まるで火
災出場時さながら、あわた
だしく準備して、なんとか
放水に間に合いました。
式に際して各表彰が行わ
れました。おめでとうござ
います。受賞者は下記(七
段)のとおりです。 松田

団長始球式

二年連続ストライク!



平成二年一月一日
のすべて一ならびの日に、
厚生事業
の一環と
して団長
以下一五
八名が参
加して行
われまし
た。
(ストライク)

団員ボーリング大会

栄えある上位受賞者は次
のとおりです。
優勝・ハイゲーム賞
第九分団 中村博志
準優勝第六分団 阪本美英
第三位第八分団 向井正雄
次回は分団の壁を取り払っ
て組み合わせをしてみても
いかがでしょうか?
植田(重)

文化財訓練

本年一月二五日に国の重
要文化財がある玉祖神社に
おいて、消防本部・消防団
第七分団並びに神社関係者
による文化財保護と林野火
災の合同訓練が行われまし
た。建物と山火事の消火・
ハイカーの人命救助等、本
番さながらの緊迫した訓練
でした。実施後、反省会が
有り、団員から「指示伝達
の間違ひ」「急斜面でのポ
ンプの圧力調整」など普段



の消火活動とは違った面での
課題が出され、大変有意
義な訓練でした。
清水・植田

(犬猫もひと安心)

老人福祉施設で火事?

昨年一月一日(日)
に、老人福祉施設「あおぞ
ら」において、消防職員・
第四分団・施設の自衛消防
隊員及び入居者が参加して
消防総合訓練が行われまし
た。
初めに、自衛消防隊員に
よる通報・避難誘導・初期
消火訓練を実施、その後担
架による人命救助・ポンプ
車による一斉放水、本番さ



(実戦さながら)

ながらの訓練に団員をはじ
めとする参加者は、真剣な
表情で訓練に取り組んでい
ました。今回の訓練で施設
の自衛消防隊員の重要性和
防火意識の高揚に役立つ
と思います。
川北

陸・海・空勢揃い

近畿府県合同防災訓練を見学して



(総動員)

昨年一月一日(木)
午前九時から直下型地震発
生を想定しての訓練が、府
下三カ所の会場で同時に行
われました。私達は団長を
先頭に二〇名がメイン会場
の新日本製鐵堺製鐵所に行
きました。
先ず会場の大きさに驚き
ました。そして国の機関を
はじめ二九〇を超える団体
が参加のもと訓練が開始さ
れ、災害現場をリアルに再

地域防災は自らの手で!

去る一月一六日(日)南
高安小学校グラウンドにて
「防災とボランティアの週
間」の一環として防災訓練
が開催されました。
南高安地区自主防災組
織・消防本部・消防団第六
分団・警察署・八尾市役所
が共同して救出救護訓練・
初期消火訓練を実施すると
共に、様々な体験コーナー
が設置されて、一般市民も
多数参加されました。第六
分団も日頃の訓練の成果を
出して迅速な放水を行いま



(よし!)

した。また煙中体験では、
煙の恐ろしさをまのあたり
にすることが出来、火災に
対する認識を新たにしまし
た。
森田

広報部員として!

第六分団 岸本
分団長から広報部員を依
頼されて二年半が過ぎまし
た。北山委員長以下一九名
が試行錯誤して、「火の見
櫓」を発刊してから今回で
第五号目となりました。昨
年は第一二回近畿市町村広
報紙コンクールにおいて
「火の見櫓」が奨励賞を受
賞したことは、非常に名誉

一三年を振り返って

第八分団 植田(重)

二九才の時「二〇〇三年消
防団に入ってもう二年半
か」という曖昧な話に乗っ
て入団して早くも二三年が
過ぎました。この間幾度か
大きな火災に出くわしまし
た。プラスチック工場が数
時間燃え続け、明け方に大
阪市の化学消防車が到着、
泡消火でやつの事で鎮火
した。おにぎりの炊き出し
を受けながらの消火作業
で、そのまま出勤したこと
もありました。また別のプ
ラスチック工場の火災で
は、建物内部へ進入して放
水中、更に前進すべく準備

なことです。分団インフォ
メーションを通じて各分団
が地域と密着した消防団で
あるということが、より一
層理解することができまし
た。今年度で消防団を退団
いたしますが、各分団が
「あなたの街の消防団」と
して、ますます地域の活性
化と地域防災に取り組んで
充実した消防団活動を行っ
てくださるようお願いいた
します。

市長表彰の部

- 本部分団 黒川博昭
- 第一分団 緒方靖司
- 第二分団 橋本清隆
- 第三分団 岡田真一
- 第四分団 岡田真一
- 第五分団 平岡元司
- 第六分団 山本雅英
- 第七分団 田中孝昭
- 第八分団 上野正己
- 第九分団 清水裕二

団長表彰の部

- 本部分団 植野保弘
- 第一分団 志村好武
- 第二分団 松尾好克
- 第三分団 桐山和浩
- 第四分団 畑山信浩
- 第五分団 堀田政一
- 第六分団 稲田喜則
- 第七分団 樋口慎治
- 第八分団 近江弘行
- 第九分団

編集後記

私達広報部員は、職業を持
ち、団員活動を遂行し、な
おかつ広報部活動をしてい
ます。部会の始まりには、
必ず私が挨拶をします。挨拶
の内容は余り覚えていま
せんが、夜の七時半から始
まる部会に、集合する部員
さんの顔を観るとホッと
し、心底から御苦労さんと
感謝しています。さて第五
号の大きな変化は、アン
ケートの成果です。皆さん
の意見を待っています。
(ワイ)

広報部会名簿

- 委員長 北山泰次
- 副委員長 久田弘義
- 本部分団 黒川博昭
- 第一分団 植野保弘
- 第二分団 緒方靖司
- 第三分団 赤澤一己
- 第四分団 橋本繁修
- 第五分団 泉野良幸
- 第六分団 川北雅弘
- 第七分団 嶋野雅弘
- 第八分団 桐山悦浩
- 第九分団 岸本正治
- 事務局 西田重光
- 田口重光
- 田口重光
- 植田重光
- 清水定男
- 森田正生
- 松田正生
- 岸本正生
- 植田重光
- 西田重光
- 田口重光

体に気をつけてや!

昨年一月二〇日土
消防本部において、一〇八名
が受診されました。高齢化が進
む中、循環器系の病気が増加し
ています。自分で健康状態を把握
して充分体に気をつけて消防活動
をしましょう。
岸本